

筒上山物語

四国で唯一
森林生態系保護地域
(コアエリア)

手つかずの自然も色濃く残ったこの周辺は森林環境保全地域に指定されている。この森に身をまかせると人間の自分達がほかの生物たちと君臨する様な存在ではなく、木や花や草や鳥虫、土や岩、空気の粒まであらゆるものたちがつながっている自然の中の一員なんだなあと、いろいろなことを感じさせてくれる。

石鎚山へ。
白山以西の最高峰。
1982m
日本百名山
日本七霊山

四国唯一の森林生態系保護地域に
石鎚山を中心に西は堂ヶ森、東は手箱山までの約4200m²が保護林になっている。

古くより霊峰として親しまれてきた石鎚山。山や自然の中に異様な念を抱き崇め、そいつ共に暮らしてきた。石鎚山も中心とする山岳信仰の聖地を結ぶルートが「籠の目」のように広がっている。

山の奥に海の神様。海津見神社は海の神様。河川の源流部や中流域に祀られていることがある。海の神様がなぜ山奥に？漁師たちの手こぎ船時代からの尊い体験によって、山が蒸れと魚がなくなることを体験から知恵として持っていた山奥の祠に

手箱山(地図上で筒上山) 上古より山麓のクワイ霊験ある神秘の山として尊崇されてきた。この山を改めて開いたのは、土佐潮江天満宮神宮である宮地常磐。3歳正月より超人的な苛酷な修業と厳寒酷暑、一日も休まず10年。至誠が天に通じ大山祇大神が神を随えてご出現し、神法秘術を授けられ神道が身につけておまじの奇蹟を起す。山内候の公許を得、信者衆人と力を合わせ、この山頂に辛苦の末に鉄鎖をかけ、万延元年6月15日、御鎖を建て仮神儀とし、文久3年山頂に十三社を建立された。明治に郷社となり現在は池川神社が奉祀、所管する。(万延元年:1860年、文久三年:1862年)

- 山頂 十三社
- 天満宮
 - 木花開耶姫
 - 孫田考神社
 - 大山祇神社
 - 文綿神社
 - 豊受皇大神宮
 - 天照名持神社
 - 天少事代主神社
 - 八王子寺社
 - 天之御中主神社
 - 大山祇神社

筒上山 1857.3m
(筒城山)
ドーム形の山容が特徴

鎖場
先達の修験者達の名前が刻まれており深い信仰の歴史を感じさせてくれる。

信仰の道

石鎚山を真正面に見る。絶好のPOINT!! 360°のパノラマがたのしめる。静かなミニオアシスの風情。吹く風が気持ちいい。

岩黒山の南斜面に広がるシロツバの純林やササの林床に林立する。美しい風景が広がる。

倒れた木はやがて朽ち、次の命とつながるために、いずれ姿を変えて土に還っていく。森の中の命はときを刻む。森の中の命の輪廻をつかさどるのは森林土壌の生き物たちだ。